

# 勝鬨橋橋脚内ミニツアー 活動 10 年間の歩み

平成 17 年 5 月に活動を開始した「勝鬨橋ミニツアー」。今年 10 周年を迎え、この間の歩みをまとめました。小さな一里塚ですが、更なる大きな貢献へのスタート台にしたいと思います。

## 勝鬨橋のミニツアー活動 10 周年を迎えて

東京都建設防災ボランティア協会会長 杉浦 浩



勝鬨橋のミニツアー活動が始まって 10 年が経った。  
この間無事故は勿論、大きなトラブルもなく総勢 7000 人の見学者を隅田川底の機械室までご案内したことになる。案内役を買って出た延べ 1900 人の協会の皆様に、心から感謝の意と敬意を表したい。

言うまでもなく、防災ボランティア協会の本来目的は災害時の建設局の防災活動への協力であるが、この週 1 回のミニツアーも今や協会活動の大きな柱として完全に定着した。

10 年経っても見学希望は衰えを見せおらず、我々活動者の年齢を忘れるまで (?) の意欲を駆り立ててくれる。そしてそのことが、災害への日頃の心構えという命題を協会員が共有し続けるよすがともなっていることは想像に難くない。

東京の近代化と戦後復興を支えた勝鬨橋をはじめとする都市施設の数々・・・、先人たちが残したこれらの遺産の有効活用とともにその使命を永らえることが、2 度目の五輪開催に向け変貌飛躍する東京を世界一の都市とするため、もう一つの大切な手順とも思える。

歴史と未来が共存する世界都市、東京の街がそうあって欲しいと願うとともに、このミニツアー活動の継続がそのささやかな一助になるという自負を抱きつつ、次の 10 年の活動への想いを巡らせたい。

建設局及び道路整備保全公社の変わらぬご支援とともに、活動者の皆様が引き続きご健勝でこのミニツアー活動に参加されますようお願い申し上げます。

## 10 周年おめでとう

東京都建設局長 佐野 克彦



建設局長の佐野です。この度は、勝鬨橋見学ミニツアーの開催から 10 周年を迎えるに際し、心からお祝い申し上げます。

ミニツアーは、尊敬すべき多くの諸先輩たちがいらっしゃる東京都建設防災ボランティア協会の皆様を無くしては運営することができない事業の一つです。

ツアー初回開催時より、平成 27 年 10 月末現在、実施回数 1,280 回、延べ 7,394 人の見学者にご参加頂いております。

ミニツアーでは、かつて勝鬨橋の開閉に用いた操作室や橋脚内部などを見学していただく内容となっており、重要文化財の勝鬨橋にとどまらず、当時の高い技術を知っていただく場として、貴重な機会を提供し、参加者からは多くの好評を得ております。

今後、2020 年に開催されるオリンピック・パラリンピック東京大会も控え、建設局の果たす役割に対する期待は、ますます大きくなっています。

これからもミニツアーをはじめ、東京都建設局の事業推進にご協力・ご支援頂ければと思いますので、引き続きどうぞよろしくお願い致します。

## 更なる活躍を期待

(公財)東京都道路整備保全公社理事長 横溝 良一



道路整備保全公社の横溝でございます、勝鬨橋橋脚内見学ミニツアー10周年おめでとうございます。

ミニツアーには、私も参加させていただいたことがあります。お年寄りの方々の参加が多い中で、安全帯を装着し、はしごを一步一步降りていった先には、機械仕掛けのおもちゃ箱の中に入り込んだような空間が広がっています。大きな歯車に分銅、網越しに見える橋の裏側など、期待を越えた素晴らしい体験が待ち受けていました。

このことに加え、皆様の丁寧で親切な対応もあって、参加された方からの評判が広まり、当公社にも、問い合わせが殺到しています。

築地市場の豊洲移転や、建設中の築地大橋の開通により勝鬨橋周辺の風景は大きく変貌を遂げてゆくでしょう、しかし、東京の歴史の1ページを飾ったこの橋を、多くの都民の方々に見学していただけるよう、皆様の更なる活躍を期待しております。

## 活動開始の頃あれこれ

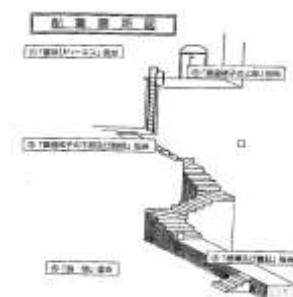
東京都建設防災ボランティア協会監事 奥水 昭秀

現職の企画室時代、発生間もない阪神・淡路大震災の惨状を視察する機会があり、この災害を切っ掛けで設立された当防災ボランティア協会には、退職時に参加しました。そして沼尻執会長のもとで、会務も手伝うことになりました。当時まだ所謂再雇用制度が充実していなかったこともあり、多くのOB諸氏が建設関係の会社等に在籍しながら、積極的に当協会活動に参加しておられました。そのため従来の防災訓練などに加え、市民視点での道路施設点検、河川愛護月間での催事支援など、平時での協力・支援活動も行われるようになりました。

その頃、建設局では貴重な土木施設（遺産）を市民公開する取り組みが進められ、その一環で勝鬨橋の開閉動力を供給した変電所をリニューアルし、道路整備保全公社とタイアップして橋の資料館の開設、橋脚内の開閉装置の見学が企画されました。しかし財政当局からは集客や効果に疑問が呈されたと言います。その一策として橋脚内の案内にボランティアの活用が浮上し、かねて協力関係にあって土木職も多い当協会への協力打診となったようです。

とは言え、打診された当協会でも従来の活動とは異質なもので、難題でした。当初の理事会でも、当協会の設立趣旨に馴染むか？むしろ個人的なボランティアを募る方が適切では！などの意見が出ました。取りあえず一度会員に諮らうというので、現地の下見を兼ねて最寄りに用意した会場で意見交換の機会を設けました。そこでも当協会設立の趣旨に照らしての疑義、橋梁に馴染みの薄い会員の説明・質疑の不安、更に、まだ鳩の残骸や雨水の溜まる状況下で安全確保の問題など、懸念が出される一方、安全が確保できれば協力も良し、との意見もありました。そこで検討を進める道路管理部や第一建設事務所、及び道路整備保全公社などと課題検討や実施要領の協議を重ねました。

そのなかで練られた開催頻度や従事要員、案内・説明の手順、見学者の公募方法、安全対策としての照明・手摺りの整備、安全ベルトの着用、保険加入などの概要案をもって、再度会員への説明を行ったうえで意向調査を行いました。集計で半数以上の会員から協力意向を得たことで、当協会の本旨である「市民貢献」としての協会活動と位置づけ、具体の協力者を募ることになりました。結果は案内を5人体制にして18班の編成が可能になりました。続く実施準備では、女性・学童見学者を踏まえたハーネスの検討、案内配置を示す3Dまがいの梯子と螺旋階段の作図、説明用に桁の簡易な可動版作製など、協会関係者での細かな苦心も思い出です。



平成17年4月29日、「かちどき 橋の資料館」前に来賓・関係者が集い、式典・くす玉割・祝い太鼓の演奏で開館となり、市民見学者の「ミニツアー」は、連休明けの5月12日に第一回の活動が開始されました。しかし、不安のなかでのスタートで、開始から1年近くは開催日に様子見に出掛け、終了後にはよく反省会と称しての懇親会も楽しみました。

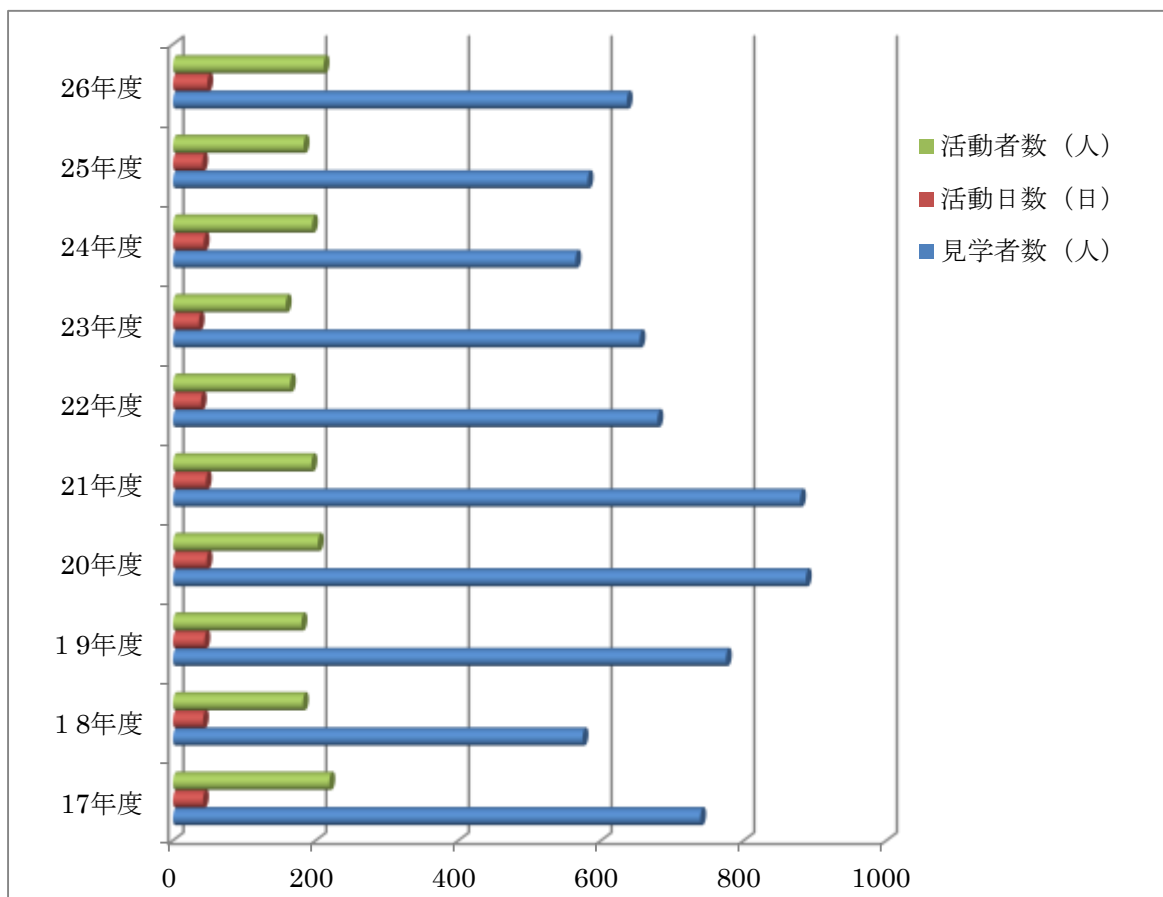
その後、次第に説明機材や資料も充実され、橋脚内のドレーン設置、更衣室の完備など、活動環境の向上を得ましたが、高齢者やハンデキャップ者を含む多くの見学者を迎えながら、今日まで無事故の活動経過に従事者への敬意と共に感慨を憶えます。ただ当該活動にも積極的で、昨夏の急逝まで活動参加された沼尻前会長とこの節目を祝えないのが残念な私情です。また最近では、終日の梯子昇降に疲労体感する身ですが、これまで従事された多くの会員、現在活動を支える杉浦会長や担当理事さん、並びに協力機関の方々と共に活動10周年を祝い、市民貢献とするこの活動が更に充実・発展されていくことを願うところです。



## 案内活動の10年

ミニツアーの見学者数、活動日数、活動者数の推移は下表、下図のとおりです。東日本大震災の影響で一時落ち込んだものの、それ以降再び盛り返し今も昨年を上回る人気です。また最近ではボランティアや社会教育機関などの団体での参加が増えている傾向があります。

年度(平成)	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	合計
見学者数(人)	739	574	775	887	879	679	654	564	581	636	6,968
活動日数(日)	42	42	44	47	46	39	36	43	41	48	428
活動者数(人)	219	182	180	203	194	164	158	195	183	211	1,889



# 勝鬨橋ミニツアー10年のあゆみ

月 日	ミニツアーのできごと	月	主な記事、放送、社会
平成9年（1997）			
6 15	東京都建設防災ボランティア協会設立	10	サッカーW杯初出場決定
平成16年（2004）			
	建設局で勝鬨橋の歴史や跳開橋の仕組みを広く市民に公開するため、橋台敷に資料館を開館し、開閉部分の見学可能とするよう検討を開始。協会に対し人的支援協力の打診。	10	新潟中越地震
平成17年（2005）			
1 下	協会員156名に意向調査の実施→協力可能申出91名	4	JR西日本尼崎脱線事故
2 9	91名を対象に現地調査と活動案の説明	8	米国ハリケーン「カトリーナ」
2 末	支援協力者の確認：85名参加	10	パキスタン北東部で大地震
3 ~	建設局、道路整備保全公社、第一建設事務所等関係機関と開始時期、案内体制、回数等の協議。	11	マンションの耐震強度偽装
4 14	ミニツアーを実施する3者（建設局、公社、協会）による『「かちどき 橋の資料館」の公開・運営並びにミニツアー等の基本協定』の締結		
4	橋脚内見学ツアー用説明マニュアルの作成		
4 25	支援者への事前研修		
4 29	「かちどき 橋の資料館」開館		
5 12	ミニツアー開始（一班5名体制、総勢87名、18班）		
5 13	「ミニツアー行動要領（改訂版）」の作成		
平成18年（2006）			
5 11	ミニツアー1周年 研修会：勝鬨橋の記憶・木住野館長	2	トリノ五輪荒川静香金メダル
平成19年（2007）			
5 12	研修会：勝どき橋の構造や特徴などの紹介・木住野館長	10	日経コンストラクション「びろり、の土木日記」
6 18	勝鬨橋、永代橋、清州橋の3橋が国の重要文化財に指定される。		
平成20年（2008）			
5 15	小冊子「勝鬨橋ミニツアーガイドブック」の作成 研修会：①ガイドブックの内容説明 ②絵図に見る隅田川河口部の歴史・木住野館長	1	日テレ「ぶらり途中下車の旅」
		9	リーマンショック
平成21年（2009）			
5 14	研修会：①橋梁の管理に関する中長期計画 道路管理部 吉沢橋梁保全係長 ②跳開橋の記録・木住野館長	7	WBCで日本連覇
		8	毎日新聞「第8回子供サミット」

●勝鬨橋の公開施設が「開」に変わります●  
**勝鬨橋 見学ツアーのご案内**  
 勝鬨橋は、昭和14年（1940）に開通した歴史ある橋です。この橋は、昭和11年（1936）に開通し、1000年以上の歴史を誇る日本の名橋です。  
 橋脚の内部には、橋の歴史や構造に関する展示があり、見学ツアーでは、橋の歴史や構造に関する展示を見学することができます。  
 カフェでは、勝鬨橋の歴史や構造に関する展示を見学することができます。  
 勝鬨橋は、昭和14年（1940）に開通した歴史ある橋です。この橋は、昭和11年（1936）に開通し、1000年以上の歴史を誇る日本の名橋です。  
 橋脚の内部には、橋の歴史や構造に関する展示があり、見学ツアーでは、橋の歴史や構造に関する展示を見学することができます。  
 カフェでは、勝鬨橋の歴史や構造に関する展示を見学することができます。



## 平成 22 年 (2010)

- 5 11 ミニツアー5周年
- 5 13 研修会：諸外国における最新の可動橋事情 1・木住野館長
- 11 30 橋の資料館増築工事完成

- 6 小惑星探査機はやぶさ帰還
- 10 朝日新聞「東京ネットワーク」

## 平成 23 年 (2011)

- 3~6 震災影響確認のためミニツアー中断
- 10 27 小冊子「勝鬨橋ミニツアーガイドブック」改定版の作成  
研修会：①ガイドブックの内容説明  
②ハネ橋の歴史・木住野館長

- 3 東日本大震災
- 7 なでしこジャパンW杯優勝
- 8 少年ジャンプ「こちら葛飾区  
亀有公園前派出所」(コチ亀)

## 平成 24 年 (2012)

- 11 1 研修会：①環2隅田川橋梁(仮称)の工事概要  
第五建設事務所 多澤橋りょう建設課長  
②日本橋400年の沿革・井上館長

- 10 iPS細胞山中教授ノーベル賞

## 平成 25 年 (2013)

- 2 5 土木学会で発見された70年前の勝鬨橋映像が都に寄付される
- 6~8 橋脚内電気設備工事の施行に伴い7回中止
- 11 6 研修会：土木学会編勝鬨橋映画の放映と解説  
道路管理部 紅林橋梁構造専門課長

- 1 角川マガジンス「月島・豊洲  
ウォーカー」
- 4 テレ朝「若大将のゆうゆう散歩」

## 平成 26 年 (2014)

- 1 案内ビデオ戦前の映像が含まれたものに変更
- 11 11 研修会：橋あれこれ・井上館長

- 3 BSジャパン「空から日本を見てみよう」
- 8 TBS「Nスタ」
- 8 テレビ東京「出没！アド街ック天国」

## 平成 27 年 (2015)

- 5 11 ミニツアー10周年
- 11 26 研修会：橋を楽しもうー全国の珍橋・奇橋ー  
道路管理部 紅林橋梁構造専門課長

- 5 日刊スポーツ「オトナの社会見学」
- 8 共同通信の取材・配信により  
全国の地方版に掲載



(道路管理部提供)



## これまで支援に協力された方々

この10年間でミニツアー活動に参加された会員は合計147名に上ります。このうち23名が10年連続で活動を続けられておられます。現在は62名で12の班を構成し、平均年間4回程度の案内を行っています。これらの方々の名簿は以下のとおりです。

阿久津 勉	神戸 俊雄	佐藤 貞一	長島 修一	松本 幹男
浅田 光昭	菊池 太彦	佐野 正生	中込 考仁	丸岡 敏夫
新井 國男	草野 郁	篠原 憲一	中嶋 和雄	丸山 勝彦
新井 敏男	久保田元久	渋谷 昌憲	中島 哲司	三沢 英夫
荒川 晃	熊谷 武志	清水 信幸	中田 勝司	緑川 浩
荒木 清	倉島 明彦	新川 彰	那須井幸一	三原徹次郎
飯山鐵之助	倉増 功美	杉浦 浩	二宮 克弘	宮崎 寿一
生田 育良	黒淵 弘二	杉本 隆男	沼尻 執	宮崎 藤男
池田 繁敏	香月 雄爽	鈴木 茂	根本 康雄	宮寺 考臣
池野 鎮雄	鹿又 和夫	高木 省三	野村 孝雄	村松 栄治
石井 睦久	栗坂 伸生	高橋 久夫	野村 隆	桃原 文夫
石川 金治	栗原 昌	高橋 紀男	橋本 栄良	森田 秀樹
石島 輝男	小柴 昌幸	高橋 康夫	長谷川光子	森田 幹男
井田 賢	輿水 昭秀	高橋 好弘	早川 一	柳川 修
板倉 治夫	後藤 旭	高松 巖	林 健一郎	柳川 宣彦
伊藤 浩之	小林 和雄	高本 正彦	林 幹生	矢野 末義
伊藤 政行	小林 寛治	滝澤 勝	平田 忠男	山口 岩男
井上 幸夫	小林健三郎	田口 嘉隆	平原 勲	山崎 伸郎
岩井 壮三	小森 和雄	武内 利夫	平峰 敏文	横井 純夫
岩田 一昭	小山 完治	竹内 壮之	藤井 賢介	湯本 勝
内山 一夫	小山 弘光	武田 稔	藤澤 亮	吉田 正一
大坪 安則	小山 幸也	田澤 成雄	藤田 進	吉田 稔
小川 恭治	金野 軍志	田島 照	藤野 文隆	吉田 安輝
奥富 宣雄	雑賀 徹	田中 敏夫	船山 吉久	吉田 征人
柿塚 至	西郷 靖	田中 稔	古川 公毅	若尾 啓介
方波見 毅	坂元 俊久	田上 嘉一	古川 俊明	渡辺 安清
加藤 俊武	笹村 正行	玉置 廣	堀内 康彦	綿貫 朝治
加藤 昌宏	佐藤 肇	千葉 守	堀中 逸	倭文 佐一
加藤 基雄	佐藤 清美	角田 勲	本間 弘	
加山 宏	佐藤 恭章	中川 良雄	松倉 迪郎	

第1巡から第41巡まで

勝どき太郎	現時点の活動者	勝どき太郎	10年継続支援者
-------	---------	-------	----------

# いろいろ取り上げられました

## 橋が語る発展の歴史

東京・隅田川

東京・隅田川には、歴史的な橋がいくつも残っている。その中でも橋は歴史を刻み、また必要があり、橋を築くことは経済の発展を支えることでもある。橋の歴史をめぐって語られてきた。



### 江戸、戦前、未来をつなぐ

隅田川に架かる橋の歴史は、江戸時代から始まる。橋は交通の便を高め、経済の発展を支える重要な役割を果たしている。戦前、戦後を通じて、橋は日本の発展を支え、未来をつなぐ重要な役割を果たしている。

江戸時代には、橋は交通の便を高め、経済の発展を支える重要な役割を果たしている。戦前、戦後を通じて、橋は日本の発展を支え、未来をつなぐ重要な役割を果たしている。



橋の歴史は、江戸時代から始まる。橋は交通の便を高め、経済の発展を支える重要な役割を果たしている。戦前、戦後を通じて、橋は日本の発展を支え、未来をつなぐ重要な役割を果たしている。

## お立ち寄りください! ホットハンズのある街へ

ホットハンズのある街にスポットライトを当ててご紹介。第一回は、豪華な新「熱い道」、見学やグルメを結びます! 橋とつながりながら、見学一歩お立ち寄りください。



Sightseeing 勝間橋橋脚内見学ツアー 1940年〜1970年まで開業。海外の技術者を呼び、日本人が検閲で学びつた唯一の可動橋。資料館「熱い道」をアナログで再現したことなど、日本の技術力の高さを伝える。オリンピックに

「H H PAPER」 2015. 7. 14 地元ミニコミ誌

日経新聞 2014. 7. 2

茨城新聞 2015. 8. 11

秋田魁新報 2015. 8. 11

少年ジャンプ 2011. 8



ツアーでは、東京都建設防災ボランティア協会のスタッフで、東京都を退職した熟練の土木技術者(写真の右側)が説明と案内を担当している

機械室へ下れる、高さ3.5mの垂直はしご。落下防止のため、安全帯を巻く。参加者には女性が多かった。「普段見られないところが見られてとても楽しかった」と話していた。日本国内で可動橋の数は少ないので、その内部に入るのはかなりレアな体験だ

日経コンストラクション 2007. 10. 26

「びろり、の土木日記」

ツアー参加者が社内報に掲載 2005. 12



ココから橋が2つに分かれます。今は、Tグリッド床板、先端金物、シャーロックで止まっています。

見学へ出発〜!!

### 見学ツアーが人気

隅田川に架かる勝間橋

開閉の仕組み、歴史学ぶ

見学ツアーが人気

隅田川に架かる勝間橋

開閉の仕組み、歴史学ぶ

見学ツアーが人気



## ガイドブックも進化しました



平成17年4月版



平成20年5月版



平成23年10月版



## いろいろ学んできました



平成20年



平成21年



平成23年



平成24年



平成24年



平成26年



平成25年

「継続は力なり」、言い古された言葉ですがミニツアーの活動には一番似合います。協会会員の皆様には、これからも猛暑の中、極寒の中でも休まず続くボランティア活動を改めてお願いいたします。また、これから参加したいという会員の方々には、ぜひお声をかけていただければ幸いです。

発行人 杉浦 浩

発行 東京都建設防災ボランティア協会

新宿区西新宿 2-7-1 小田急第一生命ビル 20F(公財)東京都道路整備保全公社内

編集 勝鬨橋ミニツアー10周年記念誌編集委員会

新井敏男、高橋紀男、林 幹生、堀内康彦、堀中 逸、丸岡敏夫

